



# 保守党代表団

～ 中華人民共和国訪問レポート～

2002年2月7日(木)～11日(月)

最高顧問	海部 俊樹
団 長	野田 毅
秘 書 長	二階 俊博
団 員	泉 信也
〃	小池 百合子
〃	西川 太一郎
〃	松浪 健四郎
〃	西田 猛
〃	野田 みどり
〃	二階 怜子
〃	泉 祥子



# 保守党

New Conservative Party

## もくじ

1. 戴秉国中国共産党中央委員会対外連絡部部長主催政治会談	1
2. 朱良元中連部部長主催朝食会	5
3. 陳雲林国務院台湾事務弁公室主任、周明偉弁公室副主任との懇談	5
4. 錢其琛国務院副総理との会見	7
5. 社会科学院・現代国際関係研究所・中国国際問題研究所の日本問題専門家との懇談会	11
6. 唐家璇外交部部長との会食	14
7. 孫剛 国家旅遊局副局長との朝食会	14
8. 江沢民国家主席との会見	15

### 戴秉国中国共産党中央委員会 対外連絡部部長主催政治会談

平成14年2月7日(木) 午後15時30分  
於・釣魚台国賓館11号楼

(戴秉国部長)

- ・ 春節を直前にして、日中国交30年早々のご訪問、中連部を代表して熱烈歓迎する。
- ・ 江主席も明後日に会うことを楽しみにしている。

(野田党首)

- ・ 春節を前にしての多忙の中、私どもの訪中に対してのお手配に心から感謝する。海部元総理、二階幹事長、泉議員ともども日中友好に努めてきた古い友人であるが、党として訪問するのは今回が初めて。
- ・ 特に、今年の日中国交正常化30年の年、日中ともそれぞれ「日本年」、「中国年」として、政府として成功に向け努力しているところ。30周年の中で色々な行事を計画しているが、2年前は二階幹事長が人民大会堂に5000人を集める壮挙を成し遂げた。是非、今年も成功させたい。
- ・ 昨年、中国のWTO加盟が決定した。中国の経済成長は著しいが、WTO加盟により、課題も抱えていくことになる。

21世紀の日中関係も新しい展開となるが、是非、両党間で友好的な関係を築いていきたい。

(二階幹事長)

- ・ 昨年、野中先生とともに訪問した際、中連部の皆さんから暖かい歓迎を受けたことに感謝。
- ・ 30周年を迎えるにあたり、与党の国会議員が力をあわせ、成功させるための議員連盟「日中国交回復30周年を成功発展させる会」が3日前にできた。会長は橋本元総理、野中氏が会長代理、古賀前自民党幹事長が幹事長。海部元総理及び野田党首等が最高顧問となっている。与党3党挙げて30周年を成功させようという土台ができた。次の開催は、我々が帰ってからになる。
- ・ 2000年5月、5000人を引き連れ訪問した「日中文化観光交流2000」は、江沢民主席にも喜んでいただき、人民大会堂の感動のシーンはいまだに語り継がれている。今年の5月、中国から3000人から5000人が来日される。今、この大訪問団の受け入れの準備を進めている。
- ・ 9月末には、日本から約1万人が紫禁城広場にお招きを受けている。広く多くの国民をお誘いしたい。その気運は盛

り上がりつつある。5000人の日本訪問と1万人の中国訪問は、30周年行事の中心的な行事と言われている。成功のため、戴秉国部長をはじめ中連部の幹部の方々のご協力をいただきたい。

(海部最高顧問)

- ・ 二階先生の話聞き、マラソンにおいて、ゴールの直前で追い抜かれた印象を受けた。私は、植樹39万本を3年計画で3000人の青少年ボランティアを連れてこれを行った。最後の5本を私が植え、記念碑も立てた。結局、日本から2900人の青少年を連れてきたが、二階さんが後から5000人連れてくることになった。(笑)

(戴秉国部長)

- ・ 三先生は三つの率先をなされた。
- ・ 海部先生は、1964年、先進国の首脳として率先して中国を訪問された。私どもは、常にこのことを頭に入れている。
- ・ 野田先生は、日中国交30周年に当たって、率先して党の代表団として中国を訪問された。
- ・ 二階先生は、一昨年、5000人の訪問という中日友好の歴史上例のない壮挙を成し遂げられた。この訪問は日中友好に大きな影響を与えた。今年の1万人は、さらに大きな影響を与えよう。人民大会堂が狭ければ天安門広場もある。
- ・ 各レベルにおいて、交流事業が進められ、今後の日中関係に深遠なる影響をもたらす。この数年間の交流の経験からともに努力すれば、両国関係も良い方向にもっていくこと、ともに努力し、新しい友好関係を築いていきたい。
- ・ 政党、政治家も日中友好に大きな役割を果たしてきた。数多くの政治家・政党は正常化のために努力された。特に、

困難な時に努力された先人の努力に感謝し、心に留めておきたい。

- ・ また中日友好発展のための国会議員の会ができたこと、大変心強く思う。その指導者の顔ぶれもこれまで日中友好に努力され、貢献されてきた人達だ。私どもも交流を強めていきたい。
- ・ 海部元総理、野田党首、二階幹事長から造詣の深い、教訓に富むお言葉をお聞きした。今後役に立たせたい。

(海部最高顧問)

- ・ 社会主義市場経済ということを経験した時、非常に驚いた。一つ一つ話し合っていくことを通じてお互い理解を深め、誤解を解くことができる。
- ・ 2点お伺いしたい。一つは、10年前、マレーシアのマハティール首相がEAE C構想を発表した時、米国の反対もあり実現しなかった。私は、アセアン諸国に日本、中国、韓国を加えたアセアン+3で出発するのが良いと思うがどうか。もう一つは、地球環境の問題で、GEA (地球環境行動会議)の会議を中国が主催したらどうか。中国として、一歩前に出ていただければ世界に大変インパクトを与えることになるのではないか。

(戴秉国部長)

- ・ 中国人民の環境問題への関心は強くなっている。大都市においても地方の都市においても環境面で遅れを取りたくないと思っている。
- ・ EAEC構想に米国は反対したが、今回、小泉総理が似たような構想を発表したが米国の反応はどうか。

(海部最高顧問)

- ・ 私は、今回は米国も反対しないと思っている。

(戴秉国部長)

- ・ この前、杉浦外務副大臣と会ったが、アセアン+3についての具体的説明は

なかった。

(海部最高顧問)

- ・ アジアだけがNAFTAのような具体的経済圏がないのはいただけないと私は思っている。

(戴秉国部長)

- ・ 専門家ではないが、この地域の経済協力関係を強化することは非常に大切と思っている。東アジア諸国が真剣に考えていかなければいけないと思う。その際、日本と中国、最も進んだ先進国と最も大きな発展途上国が共に協力することが大切だ。

(野田党首)

- ・ 30周年を機にこれまでのことを総括し、教訓として新しい30年を築くべきだという重要な指摘があった。今までの30年は友好と協力が進んだ30年であった。ただこれから先は楽観できる状況にない。これまでの30年はお互いを知らないことが逆に友好ムードを高めることができた面があった。
- ・ しかし、世界経済の構図が変わった。冷戦構造が日中友好の追い風であったが、ソ連崩壊でその流れは変わった。中国は経済において、今やWTOに加盟し、世界の工場となり、世界における存在感を高めている。一方、日本経済はジャパンアズNo.1と言われていたが、今や停滞の10年の渦中にある。日中間の経済面における摩擦も今まで以上に大きくなるであろう。ODAの見直し問題はこれに絡んでいる。
- ・ もう一つは、日中交流が増えれば、例えば、日本において外国人犯罪が増え、特にその半分が中国人による犯罪という事実が示すように、交流がすべて良い方向に行くとは限らない。10年以上前は、中国経済もそれほど発展していなかった。皆中国に行くとき親中国に

なって帰ってきた。

- ・ これからの30年はそうはいかない。これまで以上に双方のリーダーが真剣に話し合うスキームを各分野毎につくることが大事ではないかと考えている。
- ・ 外国人犯罪については、2年前、私が国家公安委員長であったとき、中国の公安部長と相互訪問し、情報交換と協力関係の推進で一致した。良い方向に行くと思っている。
- ・ WTO加盟後、経済問題に関し、日中間でどれだけ足並みを揃えられるか。日中の経済関係が双方のため、引いてはアジア、世界経済のためになるようにしていきたい。党としてこれらの問題について努力してまいりたい。
- ・ 江主席が3つの代表を打ち出されたこと、大英断だと思う。いずれその日が来るとってはいたが、英断に敬意を表したい。

(戴秉国部長)

- ・ 素晴らしいお話、ありがとうございました。

(二階幹事長)

- ・ 30年の節目の年。これからの30年を考えた時、戴秉国部長とお話できたこと大変意義深い。昨年、江沢民主席の重要講和をいただいた。「中日友好は主流」ということであり、我々双方はこの流れを青少年に引き継いでいく責任がある。
- ・ 昨年、WTO(世界観光機構)の総会が韓国と日本で開かれた。米国同時多発テロ発生直後であり、この会議においてテロ撲滅のための共同宣言を発表することを中国の何光暉国家旅遊局長に相談したところ、躊躇することなく賛成された。その結果、中国と日本の共同提案により、誰よりも早く共同宣言を世界に発表することになった。大変印象深い。来年は、中国でこのWTOの

総会が開かれるが、中国のリーダーシップにより世界の観光交流のために総会の成果が得られるよう期待したい。我々としても協力したい。中国が貿易のみならず、観光先進国となられたことをお慶びしたい。

- 日本における外国人犯罪について、中国から日本への団体観光客は2万人、その内で50名が行方不明となっている。世界の例から見ればよい方だ。運輸大臣時代に、何光暉氏との間に結んだ協定が有効だ。入国ビザの簡素化を現在の北京、上海、広州から6個所位に拡大したい。
- 外務省、警察庁、公安委員会、法務省、国土交通省などの関係省庁があるが、役所にまかせておけば長くかかるが、私と何光暉国家旅遊局長とも話し合っている。近く、省庁の担当者を中国に派遣するようになりたいと考えている。
- 日本でも観光は50兆円産業。経済面だけでなく、観光は国を観ることであり、文化、歴史などその国の姿を観るもの。
- 今までの30年はお互いが向き合って探りあいながら交流を深めてきた。これからの30年は心の底から手を携えて共に歩むように願いたい。

(戴秉国部長)

- 保守党の先生方のお話、大変参考になります。これまでの30年を総括し、今後に生かすことが極めて大事。個人としては、中連部の仕事に就いて6年にしかならないが、日中友好に積極的に取り組んでいきたい。国交30年に当たり、いくつかお話をしたい。
- 30年の間に、中日友好関係は全体として前進し、両国国民に大きな利益をもたらした。友好を堅持することは、両国にとって最も良い戦略であることが証

明された。

- 米ソの冷戦がなくなったとはいえ、日中友好の関係を弱めるわけにはいかない。いかなる理由によれ両国友好を深めていかなければならない。その間、種々の問題が生ずることがあるが、友好の精神に基づいて善処し解決すれば友好は更に深まることになる。両国は心を一つにして友好を深めていきたい。
- この30年間で中日貿易は大幅に拡大し、両国民に多大な利益をもたらした。今後、中日経済協力関係は大きく発展していく。中国は日本にとり最も大きな投資先であり、製品の市場でもある。特に、中国は農業の発展に力を入れ、所得水準の向上に努めており、日本はこれに協力できる。近くの大きな市場である中国が立ち遅れたままならば日本にとってもマイナス。
- 問題は、中国の発展をどう見るかにある。我々は朗報だと思う。ネギ、生しいたけなど時々問題は生ずるが、大きな勘定をした方が良い。唐の時代は非常に繁栄していた時期。1人当たりのGNPは世界一であった。当時も中国と日本との関係は非常に良かった。中国の高官になった日本人もいる。双方に大きな利益をもたらしたことは事実。
- 戦後の歴史を顧みて、「平和と発展の道」は日本のみならず、アジアにとっても良いこと。日本にとっても最大の武器は経済と技術であり、兵器ではない。日本が引き続き「平和と発展の道」を歩むことを期待する。
- しかし日本の一部の歴史学者に対する心配も中国人民の中にある。日本政府として、人民の中にある心配を払拭して欲しい。中国政府は一貫して友好増進の精神をもって眺めている。
- 日本における中国人の犯罪について

は、中国政府として強い関心があり、憤りを感じている。友好増進にもマイナス。我々としてはできる限りの努力をし、問題の解決を図っていききたい。中国政府はこれら犯罪を容認していないことを日本国民に説明して欲しい。

今後交流を一層深めなければならない。その過程で生ずる問題はお互いの協力で解決を図りたい。「中国人の犯罪はシャツに着いた小さなシミ」、お互い協力し、なくしていきましょう。

- ・ 私から小さな提案がある。一つは、私どもと保守党及び関係のある学者との間で、今後の30年に向けた非公開の研究・討論の場の設置すること、一つは両党の政治家の枠を超えた交流の場を設置すること。
- ・ 最近の中国の国内情勢に関し、力を集中しているのは経済建設、これは揺るぎない方針だ。次は、中国人民を良くリードし、発展するための党自体の改革。この秋に、第16期党大会を予定している。極めて大事な会議になる。大会の終わった後、貴党に報告したい。

(野田党首)

- ・ 研究交流の場の設置については、検討していききたい。

(泉参議院幹事長)

- ・ 日本と中国周辺海域の平和の確保は大切なことである。しかるに昨年末に発生した不審船は誰が、何の目的で、何を行おうとしたのか不明である。これらの解消に沈没船を引き上げたい。日本より相談、協力の依頼があった場合は、実現のため力を貸して欲しい。

(戴秉国部長)

- ・ 外交当局間で話し合いが行われていると承知している。このことに関し何か新しい情報はありますか。中国の権益と関心に配慮して欲しい。

(泉参議院幹事長)

- ・ 新聞などで報道されている以上のものは持ち合わせていない。国連海洋法条約などに抵触することはないと承知している。



## 朱良元中連部部長主催朝食会

平成14年2月8日(金) 午前7時30分～  
於・釣魚台国賓館11号楼

1972年まで、中国共産党中央委員会対外連絡部部長として日中友好、特に青少年交流に大きな貢献を果たされてきた朱良氏と朝食を共にし、旧交を暖めた。その際、朱良元部長は、「海部最高顧問、野田党首、二階幹事長のこれまでの日中友好増進に尽くされた努力に心からの感謝を述べられるとともに、中国は経済的に発展しているが、大事なのは文化交流、特に将来を担う青少年の交流であることを力説され、保守党がその役割を担って欲しい」と述べられた。



## 陳雲林国务院台湾事務弁公室主任、 周明偉弁公室副主任との懇談

平成14年2月8日(金) 午前9時～  
於・釣魚台大酒店会客庁

(陳雲林主任)

- ・ 今日、お目にかかれること大変うれしく思う。長く黒龍江省で働いていた。その間、日本とも長く交流を続けてきた。北海道余市市、新潟市、栃木市などと友好都市協定を結んでいる。1982年、黒龍江省のチチハル市の市長を務めていた。その際、栃木市と友好都市協定を結んだ。周明偉氏はハーバード留学の経験がある。
- ・ 台湾問題についてご質問にお答えしたい。

(海部最高顧問)

- ・先頃、中国側から台湾の民進党に呼びかけられたが、これからの台湾に対する方針をお伺いしたい。

(陳雲林主任)

- ・先般、「江8点」記念懇談会において、銭其琛國務院副総理が重要な講話を行った。その中で、兩岸関係について、「民進党の方でも他の肩書きであれば中国への訪問を歓迎する」と述べられ、高い関心を呼ぶことになった。
- ・私どもの台湾方針は不変。「平和統一、1国2制度堅持」の方針に変わりはない。
- ・台湾問題の解決でどの国よりも平和統一を望んでいる。その第一段階として、台湾の辜振甫海峡交流基金会理事長と中国の汪道涵兩岸関係協会会長との会談が実現した。その後、台湾の李登輝が2国論を打ち出したことにより反発を買い、辜振甫と汪道涵の会談は中断した。
- ・その後、民進党は政権をとったが、民進党は台湾独立を主張する党。政権を取ってから台湾独立を宣言していないからこれまで良好な関係を保っている。しかし「台湾の独立はしない」、「1国2制度」を認めるに至っていない。兩岸関係は対峙したままだ。
- ・一方、民間ベースでは経済、観光などで交流が日増しに増大している。1988年から今日まで人的交流は1300万人に及び、貿易も1300億ドルに達している。台湾は現在、大陸に5万社以上の企業を経営している。こうした交流を通じ、相互理解が深まり、お互いの隔たりも解消できる。さらに交流が深まれば、平和統一、1国2制度も理解されるものと思う。
- ・民進党については、4つの点で判断している。①中国は一つであるという原

則を受け入れること、②大多数の党員と台湾独立を主張している人とは別と考えていること、③高級官僚の多くは台湾独立に賛成していないということ、④民進党は国民の主流の考えに従わざるを得なくなるということ。一つの中国の原則を受け入れれば総統でも誰でも大陸は歓迎する。

(野田党首)

- ・我々も平和統一を心から願っている。国内問題とは言え、影響は大きい。昨年中国がWTOに加盟し、今年、台湾が加盟した。事実上、経済交流がこれまで以上に進むことになり、これが兩岸関係好転に結びつくと考えがどういう見通しを持っているか。

(陳雲林主任)

- ・世界経済が発展している中で兩岸は共通の認識を持っている。平和であれば兩岸にとって大きな経済的利益となる。台湾は中国との貿易で中国以上に大きな利益を得ている。これからも兩岸の経済協力は進めるつもりだ。
- ・台湾のビジネスマンが大陸で会社を起し、多くの損失を出したこともあったが、WTO加盟により兩岸がより広い経済協力を進められるようになる。WTO加盟は兩岸にとりプラスだ。

(野田党首)

- ・昨年、李登輝氏が病気治療で日本に来た。政治問題ではなく、治療目的なら大目に見たらというのが、一般の国民感情であった。今後このような問題が起きた場合どう対応されるか。
- ・2008年はオリンピック北京大会。2008年までは台湾は事を荒立たせても、大陸は大げさなことはしないだろうとの観測の下に、台湾が独立のための署名運動をするということも一部にある。これに対する考えは。

(陳雲林主任)

- ・ 李登輝氏は政界を引退したといっても台湾独立を唱える人。病気治療という人道的配慮から日本訪問を認めるべきという日本国民の感情も大切だが、13億の人民の感情を考えなければならない。李登輝氏の病気は台湾で十分治療できるという話もある。
- ・ 台湾内に、2008年の北京オリンピックまでは、国際的な目があるから何かできるのではないかという動きがあるが、我々がオリンピックのために我々の原則を放棄することは断じてない。

(海部最高顧問)

- ・ 鄧小平氏は「現状凍結・平和共存」と言われた。悪い方に踏み出すことは、防がなければならないが、現状凍結したまま皆が努力すれば事はやがて良い方向に解決する、というものであった。

(陳雲林主任)

- ・ カギとなるのは「一つの中国」の原則。待つこと。一つの中国の原則が守られなければ、待つことも駄目になる。平和統一のために、両岸で話し合っていきたい。

(海部最高顧問)

- ・ 「現状凍結・平和共存」という気持ちを持って、文化、スポーツ等交流を進めたらどうか。

(陳雲林主任)

- ・ 大変重要なことと思うが、「一つの中国」の原則の下ではより多くの話ができると思う。一部の台湾独立派の主張によって緊張が起こることもある。話し合いによって平和的解決は可能と考える。



## 銭其琛国務院副総理との会見

平成14年2月8日(金) 午前11時  
於・中南海紫光閣

(銭其琛国務院副総理)

- ・ 皆さんは、過去何度もお会いしたことのある古い友人ばかりであり、本日またお会いできて非常に喜んでいる。海部元総理は、総理就任期間中、中国が最も困難な時期に中日関係の発展の為に尽力され、この事に感謝申し上げたい。野田党首は、政治家として活発に活動されると同時に、日中友好協会が行う事業にも大きな貢献をされた。また、二階幹事長は、2000年、5000人の訪中団を組織して訪中されたが、当時の記念式典は自分に非常に深い印象を与えた。今年は1万人の訪中という新たな構想をお持ちでいらっしゃる伺っている。

(海部最高顧問)

- ・ 本年は国交正常化30周年記念であり、非常に意義深い年である。このような年に訪問することが出来てよかったと思う。自分は、約10年前、天安門事件の風波が冷めやらない時期、貴国を訪問した。その後、湾岸戦争の時には、中国側は国連決議において棄権をした。その後、多国籍軍が派遣されることとなり、サダム・フセインの行為を押さえることが出来た。
- ・ 今回同時多発テロが発生した9月11日、自分は丁度北京を訪問中であつたが、中国側は、国連での反テロリズムの決議を積極的に支持する態度表明をした。まさに貴国のこうした態度はアジアの安定と平和に貢献をしており、自分もうれしく思っている。
- ・ 貴国はWTO加盟を果たしたが、今後貴国が経済貿易面でアジアに貢献していくこと、世界貿易秩序の中で責任あ



る行動をとっていくことを希望する。この面で、銭副総理がリーダーシップを発揮されることを期待する。

(野田党首)

- ・ 本年は国交正常化30周年という非常に記念すべき年である。30周年を記念する為、政府のみならず、民間も、本年を意義のある一年とするべく様々な作業を始めている。国会議員としても国交正常化30周年を盛り上げるため、国交正常化30周年を記念する議員連盟を結成した。橋本龍太郎元総理に会長、野中広務衆議院議員に会長代理に就任していただき、我々も参加している。
- ・ 過去の30年の日中関係を振り返ると、双方の諸先輩方の御尽力があり、順調に発展してきた。今後30年を展望する時、自分は国会議員としてすべきことがまだまだたくさんあると思う。保守党の事を言えば、在席の海部元総理や二階幹事長は、個人として日中関係の為に多くの事をされたが、今後、日中関係の更なる発展の為に、党として貢献をしたいと思っている。過去の30年と、今後の30年は異なると思う。即ち、中国の国力は飛躍的に増大し、国際情勢も変化し、日中関係も今後新たな課題に直面すると思う。しかし、こうした困難を克服し、より強固な日中関係を確立するために努力していきたい。
- ・ 我々の目標はお互いの共通利益、共同の発展に繋がるよう、そして日中両国が共に国際社会の為に貢献できるようにすることである。また今後、日中関係を推進して行く上で、双方の国民感情に配慮することも重要である。

(二階幹事長)

- ・ 2000年5月20日に、5000人訪中団

が訪中した時は、銭其琛副総理をはじめ貴国指導者から熱烈な歓迎を受けたが、我々参加者全員今でも感動を覚えている。銭其琛副総理は、長時間、5000人と一緒に食事をとっていただいた。あの日は、台湾の陳水扁が就任演説をするというタイミングで、銭副総理から今後の兩岸関係に対するお話を承ったことも印象深い。

- ・ 本年は日中国交正常化30周年ということであり、5月に中国からの5000人の訪日団が日本を訪問することになっている。何光暉中国国家旅遊局長からは、2000年には日本から5000人が訪中したのだから、今年は1万人が訪中しなければいけないと言われているので、その準備をしている。1万人が訪中する際には、国交正常化30周年を記念するため1万人による植樹を計画しており、本日、観光の専門家が現場視察を行っている。
- ・ 自分と野田党首は、今回訪中する前に小泉総理と会い、その際江沢民国家主席への親書を預かった。その時、自分が日中交流事業を盛り上げる為に、総理の支援を頂きたいと言うと、総理より、自分も日本と中国における交流活動に参加したいという話があった。

(銭其琛国務院副総理)

- ・ 海部総理が訪中された時、中国は大きな困難に直面していた。先進国がみな中国を訪問したがない状況下、海部総理は率先して訪中された。また、その後も国際会議などで何度かお会いする機会があったが、困難に直面していた我が国を支持していただいた。
- ・ 本年は正に国交正常化30周年という記念すべき年であり、我々も記念活動の準備を進めている。2月21日からブッシュ米国大統領が訪中するが、この2

月21日というのは、丁度30年前、ニクソン大統領が訪中した日である。国際情勢は新しい変化が起こり、昨年のも米国同時多発テロにはみな驚かされたが、大国同士の関係は、全体として正常に発展していると言える。

- その中で、中日両国は距離の最も近い隣国関係にあり、しかも文化的交流の歴史がある。よって中日両国は、世代代の友好を保っていかねばならないというのが従来からの我々の主張である。
- 過去30年間、様々な問題が発生し、起伏があったが、全体としては発展の趨勢にある。我々は終始一貫して「歴史を鑑とし、未来に向かう」という精神を保てば、中日両国関係の見通しは明るいと認識している。
- また、中日共同声明、中日平和友好条約、中日共同宣言という3つの文書があるが、これらは、中日関係を強固なものとする上で大きな枠組みを構築している。30年来、中日両国は、政治、経済、文化、人的往来の各分野で発展してきており、現在は大きな規模にまで拡大した。今後もこうした良好な状態が継続され、双方が友好関係を発揚していくことを希望する。
- 中日交流を推進する上で以下の2点が最も重要であると認識している。1つめは、民間の友好交流であり、2つ目は青年交流である。中日間民間交流は、何世代もの諸先輩方が努力した上に中日友好交流がある。国交正常化が実現する前、中日間では既に民間の交流が存在し、政府間交流が出来るようになった後、民間交流は少し減少したが、政府間交流を促進すると同時に、民間交流をより一層発展させなければいけない。国交正常化30周年を契機

として、民間交流を積極的に展開し、規模がより大きくなっていくことを希望する。

- 今、野田党首が述べられた橋本元総理等による議員連盟の活動は非常に意義深い。また、民間の中でも青年交流は、非常に重要であると思う。30年前、諸先輩方が国交正常化の道を開いたが、彼らの多くは既に亡くなっている。これからの30年、中日関係を更に強化する上で、新しく若い人達が事業を進めなければならない。今年5月に中国から5000人の訪日団が日本を訪問し、日本から1万人の訪中団が中国を訪問することになっているというが、青年交流という意味からも非常に意義深いことである。
- 改革開放以来20年、特に90年代、中国経済は急速に発展した。しかしながら、総合的な経済レベルはまだ高くない。なぜなら我々はまだ13億の人口を考慮しなければいけないからであり、一人当たりのGDPは依然として低い。この広大な人口を養う為には、今の経済規模では未だ足りない。よって我々は経済建設を進めると同時に、各種社会保障を整備し、大量の資金を投入して貧困撲滅をする必要がある。我々は西部大開発を打ち出したが、西部にまだまだ大量の投資が必要であり、また投資したとしても直ぐに効果が現れるものではない。我々の経済建設の任務は非常に重い。
- 現在、中国経済は主に国内の広大な市場に依存しており、経済発展の原動力は、国内生産、生活への需要である。このようにして初めて政治的、経済的リスクを回避することが出来、中国は対外拡張の道を歩まない。引き続き平和外交政策を推進する。当然、対外貿易

は増加しているが、これのみに依存しているのではなく、国内需要を拡大することが重要である。国際社会には、中国の経済発展は脅威ではないかという論調があるが、中国は経済発展して、先ず国内の貧困を撲滅するという大きな任務がある。恐らく中進国のレベルに到達するにはあと50年かかる。

## 2. 不審船事件 (海部最高顧問)

- ・ 3年前、北朝鮮がテポドンを発射した後、自分は訪中し銭副総理と昼食を共にする機会があった。自分は日本と北朝鮮は直接の外交関係がなく、我々からすれば中国は北朝鮮の親戚のようなものであるから、中国から北朝鮮に何かやる時は日本側に事前に通報するよう一喝して欲しいと述べた。
- ・ 最近北朝鮮から来たと思われる不審船の事件が起こって、日本側にも被害が出たことをご存じか。このことは、テポドンが日本の上空を通過して三陸沖に落ちた事件以上に日本国民は危機感を感じている。報道によれば、不審船は逃げる時に中国国旗を振って、誤魔化そうとし、更に発砲して追跡した日本の海上保安庁職員が負傷した。この船は、不審船が沈没した海上付近からは北朝鮮製の菓子袋が発見されており、様々な面から判断して北朝鮮からきたものであると判断される。
- ・ 船が沈没した場所は貴国のEEZであり、日本側がこの船を引き上げることに對し、貴国の理解と支援を願いたい。日本政府としては船を引き上げて北朝鮮のものかどうか確認したいとしており、保守党としてもこの考えを支持している。このようにして初めて東アジアの平和と安定を実現することが出来る。

(銭其琛國務院副総理)

- ・ 北朝鮮がミサイルを発射したことは、事前に我々にも通報されていないし、当然日本側にも通報しないであろう。新聞によれば、北朝鮮側は人工衛星を打ち上げたと言っている。不審船のことは、我々も事前に知らなかった。中国側はこの情報を聞いた直ぐ中国の各港と連絡を取り、中国の船ではないことを確認した。
- ・ 事件が発生した海付近の両国の境界を巡って、両国は異なる主張をしているが、船が沈んだ場所は、日本側も中国側のEEZだと認めている場所である。少なくともこの船は中国のものではなく、北朝鮮も我々に通報するはずがない。この事件はやっかいな問題である。

(泉参議院議員)

- ・ 両国の境界画定については、今後学術的、技術的研究を経て整理されていく問題であると思う。現在、日中両国には中間線を引いており、中国の海洋調査船がこの線を超える場合は、日中双方で協定した枠組みに従い、事前通報しなければいけない。海部元総理は今回の不審船が沈んだ場所が中国のEEZ内であるとこれを承知した上で、中国側に対し、何か智慧をお貸しして欲しい、言っているのである。

(銭其琛國務院副総理)

- ・ この問題は、双方の海上管理部門が協議して解決した方がいい。境界画定については、統一された見解がない。
- ・ 先ほど海部元総理は中国と北朝鮮は親戚のようなものであると述べたが、そんなに簡単ではない。北朝鮮側がなんでも中国側に事前に通報することはないし、国交が樹立されていない日本には通報する可能性はもったないだろう。
- ・ 我々も朝鮮半島の安定を希望している。

金日成北朝鮮総書記が存命の頃、対米関係、対韓国関係は共に進展が見られたが、その後停滞した。金大中韓国大統領が就任してから新しい政策を推進し、南北首脳会談が実現し、朝鮮半島の人民に希望をもたらした。我々は一貫して韓国側が北朝鮮と接触を保つべきであることを主張している。米国はクリントン政権末期に北朝鮮側と接触をはじめ、我々も喜んでいて、また金正日総書記が都合のよい時期に韓国を訪問することを期待している。また同時に、北朝鮮側が日本と接触することも支持しており、この面で何か出来ることがあればやりたいが、北朝鮮側は我々の言うことを全て聞くとは限らない。

(二階幹事長)

- ・ 本年は国交正常化30周年であるが、今後日中間で海上、陸上の警察面での協力を積極的に推進していきたい。
- ・ 北朝鮮との関係で、自分が最後に言いたいのは、もし不審船事件が発生した相手国が日本でなければ、戦争が起きているであろうということである。

(銭其琛國務院副総理)

- ・ 最近ブッシュ大統領が一般教書で北朝鮮を「悪の枢軸」と言ったが、北朝鮮側から強い反発があると述べ、会見を終了した。



## 社会科学院・現代国際関係研究所・中国国際問題研究所の 日本問題専門家との懇談会

平成14年2月8日(金) 午後2時  
於・釣魚台国賓館11号楼

(中国側出席者)

- ・ 蔣立峰社会科学院所長
- ・ 馬俊威現代国際研究所副所長

- ・ 金 徳社会科学院研究員
- ・ 胡継平現代国際研究所所長
- ・ 張淑英社会科学院研究員
- ・ 孫承博中国国際問題研究所教授

(中国側)

- ・ 田中外相辞任後、日本の政治はどうなるのか
- ・ 日本の経済問題、円安に対する日本政府の考えは
- ・ これまでの30年、困難と挫折を乗り越え中日貿易は発展してきた。中国の研究者に疲労感もある。今後どうなるのか。
- ・ 保守党の保守は改革とは反するイメージ。もっと中国人民に説明した方が良い。

(海部最高顧問)

- ・ 保守党の保守は良いものは守る、枯れた枝は取り払うというもの。例えば。消費税の社会保障目的税を主張しているのも保守党だ。

(野田党首)

- ・ 保守党は早くから構造改革を主張し、一昨年の総選挙も構造改革を前面に押し立て選挙を闘った。橋本内閣の時の構造改革は我々の考えを取り入れたもの。私どもは自民党の中での改革派であった。あえて保守党と名乗ったのは、単に何でも変えれば良いということではなく、伝統・文化など守るべき大事なものがある。市場原理は良いが、それだけでは済まない。社会のルール、危機管理、社会保障、教育など守るものは守っていかなければならない。「変えるべきは敢然として変え、守るべきは断固として守る」が保守党だ。
- ・ 円安にも良い円安と悪い円安がある。今日の円安は日本の実力相応と見ている。日本経済のパフォーマンスは確

実に下がっており、個人的には円はまだ高いと思っている。確実に貿易黒字は減りつつあり、ゼロ金利という史上まれな状況でデフレが進行している。この点を日本政府も米国政府も問題を理解していない。既に、日本経済はこの10年、地価が下がっている。地価と株価で2000年まで約1400兆円下がった。GNPの3倍に達する。これが企業の過剰債務となり、金融機関の不良債権となり、今その処理が続行中で資産デフレが進行している。不良債権処理が構造改革というのは、誤った考え。こういうことが見えてくれば為替の方向も見えてくる。

- ・ 日中関係。これからの30年は楽観視できない。環境が変わった。友好だけでは済まない。第一は、国済情勢の変化。米ソ対立が終焉し、日中間の安保対話が大事になる。第二は、経済状況の変化。中国の目覚ましい発展は力強さを感じるし、さらに発展して欲しい。一方、日本は今なお下降線をたどっている。そのいらだちが、農業、製造業において比較劣位というかなりの危機感がある。これから誤解も生じ易いし、友好の阻害要因にもなりやすい。WTOだけでなく、それらを未然に防止するための両国の各分野毎の協議の枠組みづくりを提案している。

(二階幹事長)

- ・ 田中騒動は就任以来ずうっとあった。最後に更迭となったが、これをマスコミが必要以上に大きく取り上げていることが、海外へも知られるようになった。
- ・ 小泉内閣の支持率は下がったが、それでも海部内閣を除き歴代内閣の中ではまだ高い。本当の改革を進めるにはこの程度の支持率が良い。8割の支持率はふあつとしたもの。この際、内閣が

周辺を見直し、腰を据えて改革に取り組むことが重要。

- ・ 田中問題はやがて終息するだろう。外務省改革は全ての国民の望むところ。官僚の協力も得て、国際社会における日本の地位にふさわしい外交を展開すべきだ。外務省は奮起し全力を傾け、名誉を回復してもらいたいと思っている。
- ・ 保守党の名前にそういうイメージを持たれることは最初から解っていた。だから英語名の「NEW CONSERVATIVE PARTY」ということに意味がある。
- ・ 2000年5月、中国を訪問して思ったことは、日中友好に貢献され、亡くなられた方々を偲び、感謝の誠を捧げたい。両国の井戸を掘った先人達のことを心に刻む旅であった。今回は1万人の皆さんと共に紫禁城を訪問したい。前回、政府から何の援助もなしに日中友好の人士が5200人も集まった。軍国主義、軍国主義と言うが、日本でそういう人に会ったら、私にすぐ連絡してくれと言っている。その意味において、人的交流による相互理解の意義は大きい。

(中国側)

- ・ 中国の改革解放に日本は良いモデルを提供してくれた。鄧小平の「日本に学べ」に応じ、私も日本に留学した。中国がその結果、成功を納めようとしている時、日本経済がおかしくなり大変ショックを受けている。韓国の経済的失敗もショックであった。モデルとしてきた国として、日本、韓国の失敗を参考にして。市場主義だけで良いのか、検討を進めている。
- ・ 中日間の歴史問題、安全保障の問題は単純に判断すべきではない。解決していない問題。
- ・ これからは経済、政治の分野から文化

交流の時代になる。一流の人でも中国について何も知らない。中国の発展は非常に早い。開放的な社会になっている。言論統制はできないし、世論に左右されるようになり、政治的に難しくなる。豊かな部分と貧しい部分があるのも事実。これからは、量から質の時代、量的交流から実質的交流へ向かわなければならない。主流と支流。反対は常にある。主流の考えを貫く。

- ・ 米中間は戦略的和解の状態。相互信頼はない。中日間で相互信頼の核を築かなければならない。東アジア協力の問題は米国が怒る怒らないの問題ではない。中日が真っ向から競争したら共倒れする。協力以外にない。

(中国側)

- ・ 李登輝の訪日については、日本政府から説明があった。教科書問題について、日本政府にこれを阻止しようという動きはなかった。森総理は立つ鳥跡を濁した。日本政府に裏切られた。
- ・ 小泉総理は日を代えて靖国神社を参拝した。日本人としてはそれで良いかわからないが、中国では日を代えても変わらない。今年、参拝するかどうか解らないが、カードは日本側にある。
- ・ テロ対策のための特別措置法は日本が憲法を踏み越えた印象を持っている。特別措置法では世界で行けない所がなくなった。行動の制限がなくなった。事前承認もなく、国会による制限もなくなった。
- ・ ネギ等の3品目は殆どが日本が原因をつくったもの。それに日本政府がセーフガードを発するというのはおかしい。こういう小さなことで中日の経済関係がゴタゴタしてはならない。

(中国側)

- ・ 中国経済を過大に評価しないで欲しい。中国のGNPは日本の四分の一。一人当たりではさらに小さい。中国経済は弱い。過大評価が脅威論となっている。
- ・ 日本経済の潜在成長力を過小評価しないで欲しい。日本のGNPは世界第二位。一人当たりでは第一位。実用技術の開発力はナンバーワン。研究開発投資もナンバーワン。黒字幅も一位。外貨準備高、対外資産もナンバーワン。かなりの実力を持っている国。
- ・ 今の円安については、極端な上げ下げを防ぐことが望ましい。政府が介入したら投機筋のオーバーシュートを招き、日本にとっても中国にとってもアジア経済にとっても損。上下するようなら政府が口先だけでも安定させて欲しい。

(中国側)

- ・ 日本の軍国主義を研究してきた。2年前、プロジェクトチームの報告書を発表した。それが日本の産経新聞に載った。軍国主義が復活しているということ。二階先生に電話することはないように思う。
- ・ 保守党の構造改革を教えて欲しい。
- ・ 中国脅威論があるから軍国主義復活論がでてくる。人口も地理も大きい。中国はまだ弱い国。日本は腐っても鯛。

(中国側)

- ・ 憲法9条の改正は単なる法律問題ではない。日本がこれからどういう国家戦略をもつかの問題だ。
- ・ 日本はまだ戦争のケジメをつけていない。アメリカとのケジメもつけていない。中国は米国にも脅威を受けている。中国の国防費はそれに備えなければならない。そういう中国にとって日本が米国と手を組むことを理解できない。
- ・ 日本の海外派兵、日本が普通の国とな

るということは、アメリカとケジメをつけるなら何ら問題はない。それほどまでしてアメリカを助ける必要があるのか。

(中国側)

- ・連立与党の中で保守党独特のものが見えない。保守党の政策で小泉内閣をリードして欲しい。

(海部最高顧問)

- ・お互い誤解があることは良くない。教科書問題はボタンの掛け違いが問題をこじらせた。次世代を見据えた長い目で見て、説明していく必要がある。

(野田党首)

- ・小泉内閣の構造改革を進めるためにも、保守党は厳しい注文をつけていく。
- ・憲法改正はサンフランシスコ条約締結以来の悲願。自民党はそのために結成された政党。急に改正論がでてきたものではない。
- ・テロ対策特別措置法は特別法であり一般法ではない。武器使用と武力行使とは違う。日本は武力行使はしない。

(中国側)

- ・今までの30年も大事だが、もっと大事なのはこれからの30年。東アジア経済共同体をつくれれば良い。中国と日本という二つの中心があって、楕円形の輪をつくるのが良いと思っている。

(泉参議院幹事長)

- ・靖国神社参拝がいけないというのは、A級戦犯が合祀されているからか。

(中国側)

- ・そうだ。



## 唐家璇外交部部長との会食

平成14年2月8日(金) 18時30分  
於・外交部

唐家璇外交部部長とは夕食を共にしながら広範囲に話が及んだ。特に、日中国交正常化30周年記念事業成功に向けた意見交換が活発に行われた。中国側からの5000人の訪日、日本側からの1万人の訪中のいろんな段取りについて意見交換がなされた。また、日本の先般の外務大臣の交代や川口新外務大臣についても意見交換がなされた。唐家璇外交部部長は川口新外務大臣が早い機会に訪中されることを歓迎すると述べられた。さらに、日本の経済問題、構造改革の問題、ブッシュ米国大統領の訪日の問題なども話題となった。



## 孫剛国家旅遊局副局長との朝食会

平成14年2月9日(土) 7時30分  
於・釣魚台10号楼

孫剛国家旅遊局副局長主催の朝食が行われた。その挨拶の中で孫剛副局長は「何光暉の代理として国家旅遊局を代表して保守党の訪中団を歓迎する。中国と日本は一衣帯水の隣国。国交正常化30年、交流は多方面に及ぶが観光面での交流も著しい。今年は30周年記念事業として、中国から5000人の訪日、日本から1万人の訪中計画があるが是非これを成功させなければならない。お互い努力すれば必ず成功すると確信する。2002年は中日両国にとって大事な年。30年事業を通じてお互いの交流を深めることができる。中日友好の一層の増進とアジア、引いては世界の平和に貢献できるものと信ずる。保守党の訪中団の成功を祈る」と述べられた。

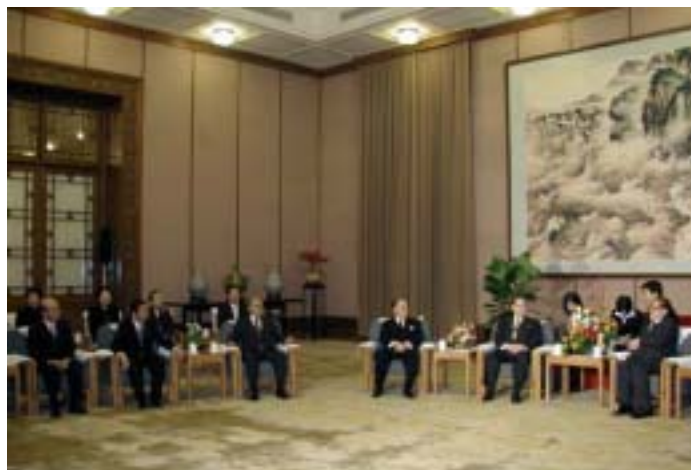
## 【江沢民国家主席との会見】

平成14年2月9日(土) 9時30分  
於・人民大会堂接待庁

(野田党首) (江沢民主席に小泉総理からの親書を手渡す)

- ・ 江主席には、春節前の多忙な時期、時間を割いて会っていただき感謝。海部元総理も二階幹事長もそれぞれ日中友好の為に貢献をしてきているが、今回は保守党として初めての訪中である
- ・ 本年は日中国交正常化30周年という記念すべき年であり、政府、民間を問わず様々な記念行事が準備されているが、保守党としても幅広い形での30周年記念行事を成功のため尽力したいと思い訪中した。北京に来る前、橋本元総理を会長、野中広務元自民党幹事長を会長代理とした国交正常化30周年を記念する議員連盟を結成したが、自分、二階議員、公明党の名だたる幹部がみな参加している。一昨年、二階議員の努力の下、5000人訪中団が中国を訪問し、人民大会堂で記念式典を行ったが、本年は更に規模の大きい構想があり、その準備を既に始めている。
- ・ 要人往来も重要であり、30周年の本年、既に何名かの具体的指導者の名前が上がり、両国政府の間で準備が進められている。前回の江主席の訪日は大きな成果を収めたので、我々としては、出来るだけ早い機会に江主席に再度訪日していただき、日中友好関係を更に発展させていきたいと思っている。
- ・ 過去30年の日中関係を振り返ると、大きな成果を収めてきたと思う。この基礎の上、今後の30年を展望し、両国の友好増進の為に、保守党は更に努力していく決意である。

(海部最高顧問)



- ・ 前回、江主席のお会いしたのは、丁度ニューヨークで同時多発テロが発生した昨年9月11日であった。その時、自分は各国代表とともに、21世紀如何にこうしたテロの発生を根絶するかということにつき、各代表と話し合った後、江主席の意見を承った。
- ・ 今回は保守党代表団と一緒に日中国交正常化30周年のことで訪中したが、今後、日中両国の40周年記念、50周年記念がずっと継続していけばいいと思っている。
- ・ 日中国交正常化20周年の年、江主席が訪日された、中曽根元総理や故竹下元総理と一緒に自分もお会いする機会があった。その時、江主席が我々に印鑑を送って下さった。その印鑑はあまりにも大きくずっと使う機会がなかったが、以前賈慶林北京市長とともに八達嶺で植樹をし、揮毫した際に使った。その揮毫は今でも八達嶺にある。自分にとって非常によい記念、思い出である。

(二階幹事長)

- ・ 2000年5月20日、この人民大会堂で江主席の重要講話を拝聴した。江主席の格別のご配慮を戴き、自分と一緒に



訪中した5200名の訪中団は日中文化交流使節団2000記念式典に参加し、大きな成功を収めた。

- 本年の日中国交正常化30周年を記念する重要な活動の1つに、中国からの5000名訪日団の日本訪問があり、これは空前の規模である。また前回、日本から5000人の訪中団が中国を訪問したので、今回は中国側からより大きな規模という熱烈な要請があり、その期待に応えるべく現在準備中である。
- 江主席の重要講話に盛り込まれた日中友好の精神を、もっと多くの国民に知って頂くため、石碑を建立することとなり、江主席に揮毫をお願いしたところ、快く引き受けていただいた。感謝申し上げます。

(泉参議院議員)

- 5000人訪中団の時、自分も国会議員の1名として訪中した。その時、江主席と握手し、江主席の手が軟らかくて驚いたことを覚えている。あの行事は、日中関係の基礎を固め、その後、日中友好関係が拡大していることを自分としても非常に嬉しく思うし、今後もこの為に努力したい。

(小池国対委員長代理)

- 新進党時代に吉林でお会いして以来の再会を喜んでいます。9月11日の同時多発テロ以来、21世紀の世界が変わろうとしている時、主席のお考えを伺うことを楽しみにしています。

(西川副幹事長)

- 1年程、経済産業大臣政務官であったが、その際、貴国の西部開発団の方々とお会いした。主席と写真をとっていただき、本日帰るがうまく写真が映っていることを祈っております。

(西田前衆議院議員)

- 20世紀から21世紀にかけての大政治

家のお1人にお会いし、握手のみならずお声もかけていただき感謝しております。

(江沢民主席)

- 今、海部元総理が述べた通り、自分は1992年春、中日国交正常化20周年の時、日本を訪問した。当時は宮沢総理であった。正式な招宴の他、6名の元総理と一緒に食事をする機会があり、その中に、中曽根元総理、海部元総理、既に亡くなった竹下元総理もいらっしやった。日本の伝統的習慣で正座をしなければいけないが、その会食場所には畳の下に掘があつて足を伸ばすことができ良かった。これは日本の伝統の中における革新と言えらると思う。
- 数千年に亘る日中友好交流の歴史を振り返った感想を述べようと思う。自分はこの中で一番年長であり、海部元総理によりも年上であると思う。1926年生まれなので本年8月で76歳になる。小さい時はこんなに長生きすると思わなかった。昔は70歳まで生きていれば「古稀」と言ったが、今は80歳まで生きることが稀ではなくなった。自分はいくつかの歴史的年代を生き、様々な辛い経験をし、いろいろな事を見てきた。
- 中日友好交流に関して3点お話ししたい。一点目は、中日両国が共に繁栄することは双方にとってプラスであり、両国の関係が悪くなれば、双方にとってマイナスである。2番目は中国が繁栄し豊かで強くなること(中文:繁栄富強)は、中国人民のみならず、日本国民、アジア人民の為、そして世界の安定の為になるということである。現在、中国は世界一の人口大国である。中国の人口12億6千万人は世界総人口の約22%にあたり、一方、耕地面積は世界総耕地面積の10%にも満たない。

世界の約10%の耕地面積で、世界の約22%の人口を養っていかなければならないのである。我が国の様々な分野の生産量を見ると、例えば鉄鋼は1億2000万トン、電力供給量は3億キロワット、固定電話台数は3億万台であるが、これらを12億6千万の人口で割れば、1人当たりの量は小さいものとなる。

- ・ もちろん北京、上海、広州など沿海地区の人民生活レベルは上がってきているが、西部地区は貧しい。だから自分は一昨年西部大開発を打ち出した。これは外国にとっては大きなビジネスチャンスである。我々は国外からの投資を歓迎する。いずれにせよ中国の繁栄は日中両国の人民にとってプラスである。
- ・ 3つ目は日本が引き続き平和と発展の道を歩むことは日本のみならず、アジアの繁栄と発展にとって大いに資するものであるということである。日本は経済の実力は中国より強い。資本主義の歴史を見れば、日本はずっと前に明治維新を行った。しかしながら、金融のことを言えば、日本の金融は比較的立ち後れている。中国も最近金融工作会議を開いた。日本の金融は世界の金融の流れにより一層追い付いていかなければいけない。自分はもともと電子エンジニアであるが、中央に来て何年も金融の勉強をした。以上、自分の経験から中日関係に関する重要な3つの結論を述べた。
- ・ 海部元総理が述べられた通り、前回お会いしたのは、同時多発テロ事件が発生した時であった。あのようなテロ事件が発生するとは、アメリカ人自身も思っ てみなかった。我々はあらゆる形式のテロに断固反対している。昨年10月の

上海APECは、我が国は主催国であったが、各国指導者とのワーキングランチの時、重点的に反テロをテーマに議論した。自分は反テロ闘争には正確な方向性が必要であるという意見を述べた。

- ・ 最後に本年は国交正常化30周年である。両国は様々な形式で30周年をお祝いすることになっている。記念活動は過去のどのものより盛大で温かいものになると信じている。まもなく春節であり、皆さんも雰囲気を楽しんでいただいていると思う。中国では春節前は、西洋のクリスマスと同じで、みんなわくわくして、休暇気分になる。

(野田党首)

- ・ 江主席から貴重なご意見を伺った。特に、江主席が述べられた日中関係に関する3つの論点は、全く同感である。昨年貴国はWTO加盟を実現させ、オリンピック誘致も成功し、活力にあふれている。今後より広い分野でますます発展していくことを期待している。今後、日中両国間には様々な問題が発生するであろうが、重要なことは双方の努力を通じて、解決していくことである。最も良いのは問題が発生する前に未然に防ぐことであるが、仮に発生したとしても、双方が智慧を出し合えばやの内に火を消していくようにしたい。このようにして初めて日中関係を発展させていくことが出来る。また今後日中両国関係を、双方で協力して国際社会に貢献していくものにしていきたい。

(江沢民主席)

- ・ 全く同感であり、今のお話を要約すると問題は『未然に防ぐこと』、『芽の内につみ取っておく』こと、『(問題が)発生しても狭い範囲に押さえ早く解決する』ことが重要だということである。